

宝塚大学 看護学部

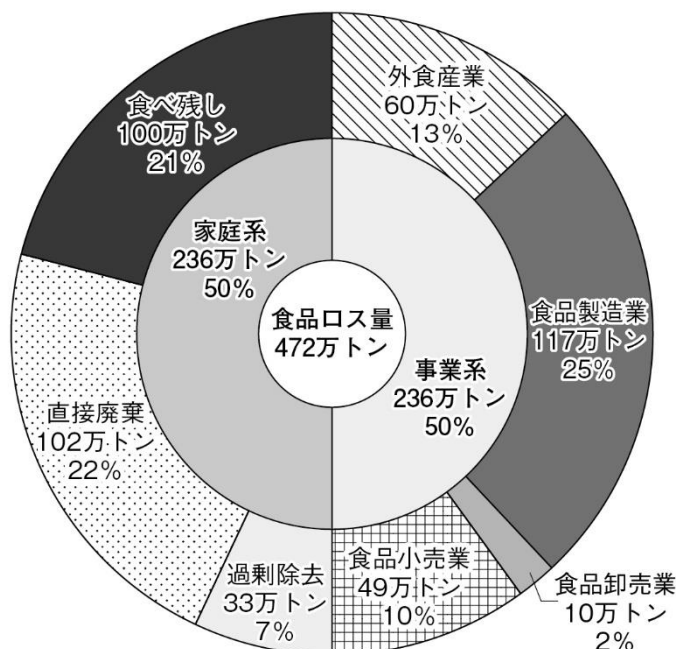
小論文 サンプル問題

本問題は、2026 年度 から新たに実施される総合型選抜(主体性評価)2期、3期において出題される「小論文」のサンプル問題として作成したものです。受験の準備にお役立てください。

あくまでもサンプル問題として公表しており、試験の際に全く同様の形式で問題が出題されるものではありません。

下の図は、食品廃棄物の発生状況と割合を示したものである。この図をもとに各問題に答えなさい。

図 食品廃棄物等の発生状況と割合



注) ※直接廃棄…未開封の食品を食べずに捨ててしまうこと。

※過剰除去…皮を厚くむきすぎるなど、野菜や果実などの食べられる部分を捨ててしまうこと。

※割合の記載について、小数点以下を四捨五入により端数処理しているため、合計値が一致しないことがあります。

出典：「我が国の食品ロスの発生量の推移等」環境省ホームページ

<https://www.env.go.jp/content/000232644.pdf>

https://www.env.go.jp/press/press_03332.html

問題 1

本来食べられるはずなのに、食べられないで廃棄される食品のことを「食品ロス」と言う。このグラフは、令和4（2022）年度に発生した食品ロス量の推計値を示すものである。これを見て、食品ロスが家庭系・事業系のそれぞれにおいて発生する要因として考えられることを具体的に説明し、400字以内でまとめなさい。

問題 2

食品ロス量の削減のためには、「地産地消」（地元の産物をその地元で消費すること）が有効な手段の一つであるとも言われている。なぜ有効と考えられるのか、地球温暖化問題との関連も含めて、400字以内でまとめなさい。

解答例

問題 1

まず、家庭系については、「食べ残し」の要因は、調理の際に家庭内で食べきれ分量を十分考慮せず、作り過ぎてしまうことであろう。「直接廃棄」の要因としては、食品を必要以上に多く購入し、消費期限切れ後に思い出して廃棄せざるを得なくなる状況が考えられる。また、「過剰除去」については、調理技術面での未熟さや、店頭で不特定の人々の手が触れていることへの不安、残留農薬への不安などが、要因として考えられる。

次に、事業系の「外食産業」については、客の通常の食べ残し以外に、宴会などで見栄えを重視し、調理する側が多く作り過ぎる状況も考えられる。また、事業系他項目では、「食品製造業」と「食品小売業」の占める割合が大きい。このことは、製造段階で規格外品が、小売段階で売れ残り品が、それぞれ発生しやすいという状況に起因するものであろう。製造業者は卸売業者からの返品も廃棄するため、食品ロス量が特に多いと考えられる。

(20 字×20 行)

問題 2

「地産地消」を行えば、遠方の産地から消費地までの長距離輸送をしなくて済み、食材の鮮度が保ちやすくなる。その結果、劣化した食材を廃棄する必要も少なくなり、食品ロス量の削減に有効であると考えられる。

次に、地球温暖化問題との関連で言えば、地産地消の実施により、次の 2 点から温室効果ガスの削減を図ることが可能である。第 1 点は、輸送車両からの排出ガス量を削減できる点である。長距離輸送をすれば、距離が長い分排出ガス量も多くなるが、その輸送が不要になれば、排出ガス量は少なくて済む。第 2 点は、廃棄食品の焼却に伴う温室効果ガスの発生量を削減できる点である。廃棄食品は生ごみとして焼却される。地産地消の実施で食品ロス量が減れば、生ごみの量もその分少なくなり、焼却炉からの温室効果ガスの発生は抑制されることになる。廃棄食品は水分を多く含み、焼却に多くの燃料を要することから、食品ロス量の削減は喫緊の課題である。

(20 字×20 行)

看護学部 アドミッション・ポリシー

①知識・理解

入学後の就学に必要な基礎学力を有している。高等学校で履修する国語、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

②思考・判断

さまざまな問題に立ち向かい、多面的かつ論理的に考察することができる。

③関心・意欲

人間の生命と健康に深い関心を持ち、積極的に社会貢献する意欲がある。

④態度

豊かな感性と誠実な態度で、積極的に他者と関わることができる。

⑤意欲

看護学を主体的・創造的に学ぶ意欲を有している。

⑥表現

自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

出題の意図

上記アドミッション・ポリシーの①・②・⑥に該当するかを判断するための問題です。

まず、①（知識・理解）に関しては、高等学校の家庭科や公民科の授業を通じて、食品ロス問題や地球温暖化問題についての基礎知識を獲得できているかを問う設問となっています。

次に、②（思考・判断）に関しては、問題１で、食品ロスの発生要因をいくつかの観点から考察することを求め、問題２で、食品ロス量削減のために「地産地消」を行うことについて、地球温暖化問題との関連も含めて考察することを求めています。多面的かつ論理的な考察力が求められる設問となっています。

そして、⑥（表現）に関しては、問題１・２共に、400字という比較的少ない字数の中で、説得力のある論述を求める設問となっています。自分の伝えたい内容を絞り込み、それらを的確に表現していくことが肝要です。